

### 大学院進学を視野に入れて将来像を描いてほしい

横浜キャンパスでは、午前10時からメディア情報学部とデザイン・データ科学部、午後1時から環境学部が説明会を開催しました。

環境学部の説明会では、学部長の飯島健太郎教授から「2025年9月に大学院情報データ科学研究科を開設。学生増に対応しながら、横浜キャンパスにおけるより良い学びの環境を整えるため、来年3月に新しい7号館が竣工します」と横浜キャンパスの進化を印象づけました。その後、在籍する学生数や、同学部が「生態環境」「都市環境」「環境経営」「環境政策」の4分野にわたる専門性の高い教育を実施していることなどを説明しました。

教員紹介に続いて、教務委員長の馬場健司教授がカリキュラムの流れや年間修得単位数の説明を行い、「履修状況や成績に応じて、適切な指導をしている」とフォローアップ体制についても話しました。



きめ細かい学修支援体制について解説する馬場教務委員長と熱心に聞き入る保証人の方々

大学院研究科長のリジャル ホーム・バハドゥル教授は「学生には、ぜひ大学院進学も積極的に検討してほしい」とした上で、そのメリットとして「成績上位者の優遇制度がある」「高度な

専門的スキルを修得できるので生涯年収に大きな差が出る」「研究活動を通じて社会の求める主体性や課題解決力を身につけられる」「1年早く社会に出られる早期修了コースを用意している」ことなどをあげました。

最後に説明に立った横浜キャンパスキャリア支援委員長の史中超教授は、2025年度の就職先や院生・学部生それぞれの就活ステップについて説明し、「近年は早い時期に内定が出るので、就活準備も早めしておくことが望ましい。家庭でもぜひサポートを」と促しました。

全体説明会のあとは、会場を移して学科・学年別説明会を行いました。

環境創生学科1年生のクラスでは、各クラス担任の自己紹介の後、単位取得の方法やキャリア支援策、研究室への配属などについて、さらに詳しく説明しました。教授陣は「研究室によって将来学生が進むべき業界の方向性も決まってくるので、慎重に選んでほしい」と話していました。

環境学部2年生のクラスでは、保証人から「就職先に海外を選ぶ学生はいるのか」「どうやってインターンシップの情報を集めればいいのか」といった質問が出されて、活発な応答が行われました。「子どもにどうやって就職面のアドバイスをすればよいか分からない」という問いかけに対しては、「困ったときは早めに教職員やキャリア支援課に相談するよう(学生に)伝えて」と親身に応じていました。



環境創生学科1年生のクラス別説明会で早期からのキャリア支援策を紹介する史教授

## 甲府会場

### 地域とつながる、保証人との交流の場

世田谷キャンパス 教学課 吉住亮志

昭和42年の開催から数えて今年で59回目を迎えた「保証人対象 大学との連絡会」。今年度は全国20会場で開催いたしました。今回は、そのうち『甲府会場』での様子をご報告いたします。

『甲府会場』は、9月6日(土)13時30分より「古名屋ホテル」を会場に開催し、山梨県を中心に近県から11世帯12名の保証人の方にご参加いただきました。大学からは教員1名、職員1名が出向き、当日配布した冊子とパワーポイント資料を用いてご説明しました。

「大学の近況」では、情報データ科学研究科情報データ科学専攻の開設、横浜キャンパスにおける新棟建設、TCU Shibuya PXUの誕生について紹介しました。「キャンパスライフ」では、学生生活における支援体制を、「学修の流れ」では、4年間の学修の流れや成績通知書の見方を、「大学院進学・就職」では、大学院進学のメリット・デメリットに続き、近年の就職事情や本学の就職実績・就職支援体制をご説明し、大学の「いま」について理解を深めていただきました。

最後に、同窓会組織である校友会山梨支部より、支部の活動についてご案内があり、地域で活躍するOBOGの存在や卒業後のネットワークについて保証人の皆様にご理解いただく機会となりました。

本学は、今後もこうした機会を大切にし、保証人の皆様と情報交換を重ねながら、より良い大学へと発展させてまいりたいと考えています。



甲府会場の受付



長野会場の様子